

インド人留学生の誘致と就業支援 ー情報発信とコミュニティの役割ー

九 門 大 士

近年、日本社会においてインド人材への注目が高まっている。人口減少や人材不足に直面する日本にとって、情報通信技術 (IT) などの理系分野やビジネス分野等様々な分野に強みを持つインドは、大きな魅力を持った国である。世界第 1 位の人口 (約 14.3 億人) を有するインドにおいて、インド教育省の調査 (2021 - 2022) によると、大学生と大学院生を併せて約 4,000 万人の学生がおり、うち理工系は約 4 分の 1 を占めている。その中からいかにして留学生や高度人材を日本へ誘致し、活躍と定着を支援するかは、今後の日本社会の多文化共生の観点からも喫緊の課題である。

インド人留学生受け入れとエンプロイアビリティ

日本学生支援機構 (JASSO) の「2024 (令和 6) 年度外国人留学生在籍状況調査」によると、2024 年 (5 月 1 日現在) の外国人留学生数は前年比 20.6% 増の 33 万 6,708 人となった。うち、外国人留学生として日本の高等教育機関に在籍するインド人は、2024 年時点で 1,685 人 (17 位)、全体に占めるシェアは 0.5% にとどまっている。これは同年の上位 3 か国の、中国人 (12 万 3,485 人、シェア 36.7%)、ベトナム人 (4 万 323 人、シェア 12%)、ネパール人 (6 万 4,816 人、シェア 19.2%) と比較してかなり少ない数字である (表)。

表: 出身国 (地域) 別留学生数 (2024 年 5 月 1 日現在)

順位	国・地域名	留学生数	構成比
1位	中国	123,485	36.7%
2位	ネパール	64,816	19.2%
3位	ベトナム	40,323	12.0%
4位	ミャンマー	16,596	4.9%
5位	韓国	14,579	4.3%
6位	スリランカ	12,269	3.6%
7位	台湾	7,655	2.3%
8位	バングラデシュ	7,597	2.3%
9位	インドネシア	6,778	2.0%
10位	モンゴル	4,085	1.2%
(中略)	-	-	-
17位	インド	1,685	0.5%

出所: 日本学生支援機構 (JASSO) の「2024 (令和 6)

年度外国人留学生在籍状況調査」より筆者作成

日本の留学生数は 2007 年以降、東日本大震災の影響を受けた 2012 年およびコロナ禍の影響を受けた 2020 年～2022 年以外、一貫して増加傾向にある。一方、インド人留学生は 2015 年の 879 人から 2016 年に入って 1,015 人と 1,000 人台に増加したものの、それ以降 1,000 人台にとどまり、構成比も 0.5～0.7% 程度で推移している。

その背景には、米国や英国、カナダ、豪州の「ビッグ 4」と呼ばれる英語圏の国への進学が主流であることに加え、日本では英語プログラムが限られていること、出願プロセスや奨学金制度の情報発信が不十分であること、インターンシップ情報や中長期のインターン機会が不十分で留学後の就業機会が不透明なことなどが挙げられる。

保護者が卒業後の就職機会を重視して進学先を選ぶ傾向があるインドからの留学生誘致に際しては、エンプロイアビリティ (雇用される能力や可能性) の視点が必要になる。さらには、インドなどに限らず、留学を投資と考える留学生は多く、そのリターンとしてその国で就職できる機会があるかどうかは 1 つの重要な要素である。また、世界大学ランキングなどでもエンプロイアビリティに関連した指標が設定されているため、大学自体のブランディングの観点からも重要である。また、就職ができたとしても、その後の企業のキャリアパスが長期雇用・年功序列的な制度を前提に作られていることが多いため、将来のキャリアビジョンが見えにくいという課題もある。

新卒人材の就職可能性と就労ビザ制度に優位性

しかし、インドの英字ビジネス紙の The Economic Times (2025 年 6 月 4 日付) によると、最近の国際情勢の不透明感や卒業後の就業機会の減少、米国の留学生ビザ発給の一時停止などを背景に、米国をはじめとする英語圏以外の選択肢を検討するインド人学生も出てきている。ドイツ、フランスなど欧州が人気とのことだが、日本にとっても優秀な人材獲得の機会でもある。日本は大学の学費が英語圏と比較して低いことに加えて、外国人留学生が卒業後に日本で働くための高度人材向けの在留資格取得が比較的しやすいという利点がある。実際に、日本

で学位を取得した外国人留学生の多くが、卒業後「技術・人文知識・国際業務」への在留資格変更を経て日本企業に就職している。

出入国在留管理庁によると、2023年に「留学」など外国人留学生の在留資格から就職目的で在留資格の変更許可申請をした件数は42,786件で、うち41,400件(96.8%)が許可されている。2011年からの許可率の推移を見ても、約8割～9割の高い水準で許可されている。変更許可後の在留資格として代表的な「技術・人文知識・国際業務」は2023年に全体の82.3%を占めている。それ以外も教授(2.4%)、高度専門職(2.0%)など全体の約9割がいわゆる専門的・技術的分野の在留資格に相当する。こうした高度人材に相当する在留資格を海外で留学後に取得しようとする、かなりハードルが高い。例えば、米国移民局(USCIS)によると、高度人材向けのH-1Bビザは初回申請の場合、年間発給枠(一般枠65,000件、米国の修士号以上取得者向けの追加枠20,000件)がある。申請数がこれらの枠を超えた場合、抽選制度が導入されるため、優秀な人材であっても取得困難なケースが多い。例えば、2023年の登録数(全応募者)は474,421件で、選出数(抽選)が127,600件と、全体の26.9%しか選抜されず、さらにその後審査プロセスを経る必要がある。

留学と就職をつなぐ情報発信の必要性

重要なことは日本からインドや海外に対して、留学と就職という点を連携する形で効果的に情報発信がなされていない点である。留学という入口時点で卒業後の就業について検討する学生や保護者が多いため、この2つをつなげて訴求することが肝要である。

そこで、大学や政府は必要に応じて連携しながら、以下の対応を行うべきである。第1に、インドの学生に対して、留学前に留学先の大学の情報のみならず、卒業後の就業機会や日本でのキャリアの可能性について十分な情報提供やPRを行うことが重要である。第2に、就職前後に一定程度の日本語能力が求められる点についても説明した上で、大学において日本語能力向上への学習支援をするべきである。日本は企業の内定が得られれば就労ビザを取得しやすいが、外国人留学生が企業の内定を取得する際に、高度な日本語能力が求められるという課題があるためである。ただし、これらは企業側で英語の運用能力が低いという別の課題も孕んでいる。

日本のインド人コミュニティの現状と展望

政策的には、インド人に日本や日本で働くことに関心を広げてもらい、関連情報を入手しその後の定

住もしやすくすることが中長期的に重要である。そのためには、第1に、インド国内の大学における日本語学科の設立の補助を行うなど日本語が学べる環境整備へのサポートを行うことである。国際交流基金が実施した「2021年度海外日本語教育機関調査」によると、インドの日本語学習者数はマレーシアに次ぐ世界11位の3万6,015人(前回調査比5.5%減)、日本語教育機関数は323(前回調査比6.3%増)となっており、日本語学習に関心を持つ人が一定数存在する。

第2に、日本のインド人コミュニティの支援が挙げられる。在日インド人はまだ数が少なく、企業のマネジメント層にいるインド人も少ないため留学や就職についての同国人からの情報が入手しづらい。東京では、インドのIT人材が多く居住しておりインド系のインターナショナルスクールもある「リトルインディア」と呼ばれる西葛西のような地域も生まれている。日本のインド人コミュニティを検討する際に、米国におけるインド人移民コミュニティの事例が参考になる。例えば米国では、2023年現在、290万人以上のインド人移民がアメリカに居住しており、米国の全外国生まれの居住者の6%を占め、メキシコに次いで2番目に多い。

彼らは高い教育を受けて多くが学士号以上を取得しており、2023年度に発行された高度技能労働者向けのH-1Bビザの約3分の2を占めている¹。また、グローバル企業やスタートアップのCEOや役員、医者、弁護士、大学教授など社会的に高い地位にあるインド人が幅広い職種にいるため、人的ネットワークの広がりもある。

このように、インドからの留学生を増やすためには、複数の要因が関係するが、卒業後の日本での就業機会についての情報発信と機会提供は重要な要因である。また、生活や進学・就職に関する情報を共有できる在日インド人コミュニティの存在も中長期的に重要である。西葛西のように日本社会との共生も進んでいる事例に学び、情報取得や相談が可能なネットワークを検討していくことが求められる。※本研究はJSPS科研費JP23K01737の助成を受けたものです。

(くもん たかし・アジア研究所教授)

¹ Madeleine Greene and Jeanne Batalova(2024) “Indian Immigrants in the United States”, Migration Policy Institute (2025年6月23日アクセス)